

住民リレーボイス③

「昔の話をぜひ聞かせてください」

1B棟 川尻大介さん

2018年3月に桜台ビレジに引っ越してきました。青葉区育ちの私にとって、環状4号線沿いの風変わりな建物は長らく気になっていた存在。よもやそこで暮らすことになろうとは！

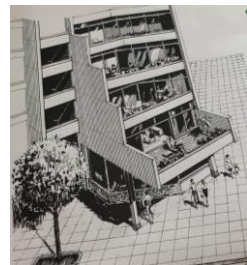
じつは《桜台ビレジ》の名前を知ったのは学生時代。建築学科に入学し、大学の図書館で専門誌をパラパラと眺めていると、地元で見慣れたあの建物を発見しました。誌面によれば、《桜台ビレジ》は内井昭蔵という建築家の設計で1969年に完成一。

建築分野では、内井氏は戦後を代表する建築家のひとりです。砧公園内の《世田谷美術館》が代表作とされていますが、それよりも早く、桜台ビレジの翌70年に完成した《桜台コートビレジ》で日本建築学会賞を受賞しています。60年代後半は折しも高度成長期で日本経済が絶頂期にあった時代。《桜台ビレジ》もまた、内井氏にとって最も脂が乗っていたころの仕事でしょう。

私自身は大学卒業後、出版業界に就職し、大学で学んだ知識を生かそうと、建築・土木の専門書の編集者になりました。すると仕事柄、人づきあいは建築業界だけでなく出版関係にも広がります。

つい数カ月前には、神保町のN書店で働く友人が「こんなものを見つけたよ」と一冊のパンフレットをくれました。表紙には「緑のコミュニティ施設のある桜台ビレジ」の題字が。なんと東急不動産が入居者募集のために、68年に制作した葉でした。

当時は建物も完成前で、イメージは模型写真とささやかなスケッチ画のみですが、「広いベランダをもつユニークな設計」を謳い文句に、間取りや価格が部屋ごとに細かく分類されています。こんなにバリエーションが豊富では選ぶのもたいへんだったことでしょう。販売元の苦心も偲びつつ、歴史的(?)資料を楽しく眺めています。



写真左上) 1968年に入居希望者に配布された桜台ビレジのパンフレット

写真上右) 建物の特色を謳ったイメージスケッチ

写真下) 1972年発行の専門誌に掲載された、桜台ビレジ開発当時の周囲の様子



“誰でも集える場” 桜台ビレジサロン 開催のお知らせ

日時：9月16日(月・祝) 朝10～12時 第1回は茶話会です

場所：モノカム キッチン&ブックス 参加費：大人100円

問い合わせ先 自治会担当・三輪 090-7018-0601



ホームページに年内のスケジュールを掲載しています。10月は防災訓練